

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第3回）

＜岩手中部ブロック＞

日時：令和元年8月1日（木）

14:00～16:00

会場：花巻市交流会館

1階 交流スペース

【次第】

- 1 開会
- 2 県教育委員会挨拶
- 3 岩手中部ブロックの状況について
- 4 後期計画策定に向けた意見交換
 - ◆ テーマ
各地域における学校・学科の配置について
- 5 その他
- 6 閉会

■ 後期計画策定に向けた意見交換（岩手中部ブロック）

[後期計画における高校教育の目指す方向性（案）]

- ・ AI や IoT 等の急速な技術革新の進展による教育環境の変化や学習指導要領の改訂等、高校教育を取り巻く現状を踏まえ、望ましい学校規模の確保による「教育の質の保証」と本県の地理的状況等を踏まえた「教育の機会の保障」を大きな柱とした高校再編を進めながら、新時代に対応した「社会を創造する人づくり」の実現を目指す。

[テーマ]

各地域における学校、学科の配置について

(1) 岩手中部ブロックの現状

- ・ 全日制課程については、県立高校は普通高校 5 校、専門高校 3 校（農業、工業、総合的な専門高校）、総合学科高校 1 校の 9 校設置しています。また、私立高校が 2 校あります。

(2) 岩手中部ブロックの課題等

- これまでの地域検討会議において、学科等に関する意見としては、「ものづくり関連の求人の増加等に対応するため、工業科に限らず、就職者の割合の高い専門学科を維持することが必要」等がありました。
- 平成 30 年度に実施した中学生アンケートにおいて、普通科系、商業科、家庭科希望者の割合が設置学科の状況を上回っています。また、工業科希望者の割合が、前回（H27 年度実施）と比較してやや減少しています。
- 平成 31 年度入試における、岩手中部ブロックの定員充足率は 95.3%（県平均 85.1%）となっており、他のブロックと比べて高い状況にありますが、9 校中 5 校で欠員が生じています。
- ブロック間の交流について、過去 3 年間（H29～31 年度）の平均を見ると、他のブロック等から転入した生徒が 407.3 人、他のブロック等へ転出した生徒が 267.7 人となっており、他のブロック等からの転入が 139.6 人上回っています。
- 平成 31 年 3 月の中学校卒業生数は 1,879 人で、後期計画最終年の令和 7 年 3 月の中学校卒業予定者数は 1,601 人（14.8%減）、令和 15 年 3 月には、1,297 人（31.0%減）となる見込みです。今後、中学校卒業生数の減少により、各校の入学者が減少するものと見込まれ、学校規模が縮小していくものと予想されます。

(3) 議論の方向性

- 現状を踏まえ、今後、岩手中部ブロックにおける必要な学校・学科について、御意見を伺います。
- 中学校卒業生数については、後期計画終了後もさらに減少していくことが見込まれる中、可能な限り現在の学校を維持する観点から、学級数の調整で対応する考え方と、学校の活力向上の観点から、学校統合で対応する考え方があります。これらの考え方について、岩手中部ブロックの現状を踏まえた具体的な御意見を伺います。

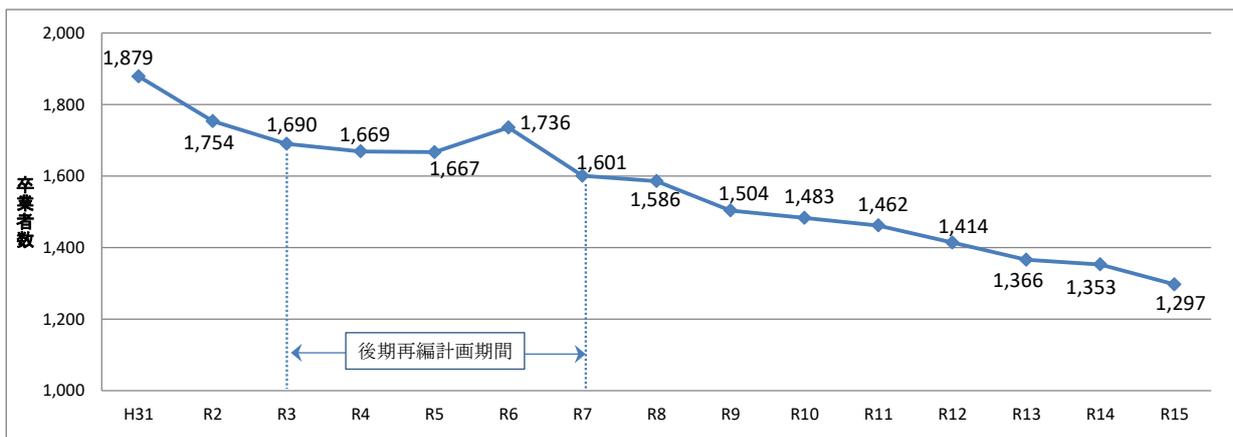
[岩手中部ブロックの状況について]

1 中学校卒業者の推移 (県内ブロックごと)

	中段: 対前年比 下段: 対H31年比														
	H31. 3	R2. 3	R3. 3	R4. 3	R5. 3	R6. 3	R7. 3	R8. 3	R9. 3	R10. 3	R11. 3	R12. 3	R13. 3	R14. 3	R15. 3
盛岡	4,263	4,175	3,901	4,189	4,023	3,997	4,000	3,964	3,803	3,749	3,517	3,427	3,487	3,479	3,307
		-88	-274	288	-166	-26	3	-36	-161	-54	-232	-90	60	-8	-172
		-88	-362	-74	-240	-266	-263	-299	-460	-514	-746	-836	-776	-784	-956
岩手中部	1,879	1,754	1,690	1,669	1,667	1,736	1,601	1,586	1,504	1,483	1,462	1,414	1,366	1,353	1,297
		-125	-64	-21	-2	69	-135	-15	-82	-21	-21	-48	-48	-13	-56
		-125	-189	-210	-212	-143	-278	-293	-375	-396	-417	-465	-513	-526	-582
胆江	1,166	1,174	1,045	1,117	1,117	1,091	1,018	1,067	1,043	971	944	914	914	897	861
		8	-129	72	0	-26	-73	49	-24	-72	-27	-30	0	-17	-36
		8	-121	-49	-49	-75	-148	-99	-123	-195	-222	-252	-252	-269	-305
両磐	1,164	1,084	1,075	1,057	999	997	958	929	872	847	829	787	753	733	694
		-80	-9	-18	-58	-2	-39	-29	-57	-25	-18	-42	-34	-20	-39
		-80	-89	-107	-165	-167	-206	-235	-292	-317	-335	-377	-411	-431	-470
気仙	499	467	438	415	396	406	421	380	354	372	343	355	353	351	330
		-32	-29	-23	-19	10	15	-41	-26	18	-29	12	-2	-2	-21
		-32	-61	-84	-103	-93	-78	-119	-145	-127	-156	-144	-146	-148	-169
釜石・遠野	572	527	519	532	522	483	508	454	466	504	465	448	433	412	409
		-45	-8	13	-10	-39	25	-54	12	38	-39	-17	-15	-21	-3
		-45	-53	-40	-50	-89	-64	-118	-106	-68	-107	-124	-139	-160	-163
宮古	652	574	580	553	621	574	511	498	549	538	495	478	507	504	475
		-78	6	-27	68	-47	-63	-13	51	-11	-43	-17	29	-3	-29
		-78	-72	-99	-31	-78	-141	-154	-103	-114	-157	-174	-145	-148	-177
久慈	509	504	449	456	474	427	461	427	422	410	408	382	353	346	326
		-5	-55	7	18	-47	34	-34	-5	-12	-2	-26	-29	-7	-20
		-5	-60	-53	-35	-82	-48	-82	-87	-99	-101	-127	-156	-163	-183
二戸	430	419	398	416	386	351	371	355	349	359	329	289	280	279	273
		-11	-21	18	-30	-35	20	-16	-6	10	-30	-40	-9	-1	-6
		-11	-32	-14	-44	-79	-59	-75	-81	-71	-101	-141	-150	-151	-157
全県	11,134	10,678	10,095	10,404	10,205	10,062	9,849	9,660	9,362	9,233	8,792	8,494	8,446	8,354	7,972
		-456	-583	309	-199	-143	-213	-189	-298	-129	-441	-298	-48	-92	-382
		-456	-1,039	-730	-929	-1,072	-1,285	-1,474	-1,772	-1,901	-2,342	-2,640	-2,688	-2,780	-3,162
	卒業生	現中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1					

2 中学校卒業者の推移 (岩手中部ブロック内の市町村ごと)

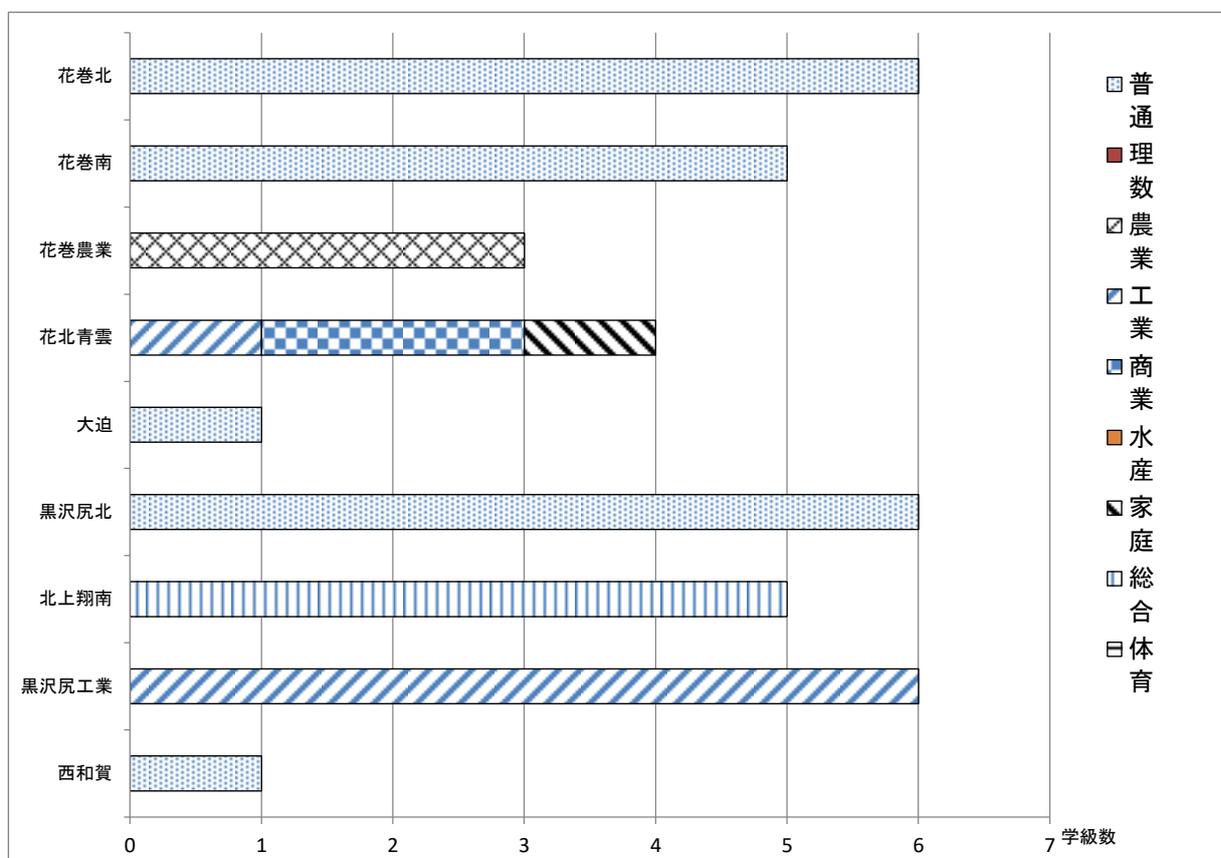
	中段: 対前年比 下段: 対H31年比														
	H31. 3	R2. 3	R3. 3	R4. 3	R5. 3	R6. 3	R7. 3	R8. 3	R9. 3	R10. 3	R11. 3	R12. 3	R13. 3	R14. 3	R15. 3
岩手中部	1,879	1,754	1,690	1,669	1,667	1,736	1,601	1,586	1,504	1,483	1,462	1,414	1,366	1,353	1,297
		-125	-64	-21	-2	69	-135	-15	-82	-21	-21	-48	-48	-13	-56
ブロック計		-125	-189	-210	-212	-143	-278	-293	-375	-396	-417	-465	-513	-526	-582
花巻市	899	864	817	810	749	846	725	734	694	694	675	657	624	625	604
		-35	-47	-7	-61	97	-121	9	-40	0	-19	-18	-33	1	-21
		-35	-82	-89	-150	-53	-174	-165	-205	-205	-224	-242	-275	-274	-295
北上市	956	851	835	825	891	862	841	821	787	771	764	736	717	703	671
		-105	-16	-10	66	-29	-21	-20	-34	-16	-7	-28	-19	-14	-32
		-105	-121	-131	-65	-94	-115	-135	-169	-185	-192	-220	-239	-253	-285
西和賀町	24	39	38	34	27	28	35	31	23	18	23	21	25	25	22
		15	-1	-4	-7	1	7	7	-4	-5	5	-2	4	0	-3
		15	14	10	3	4	11	7	-1	-6	-1	-3	1	1	-2
	卒業生	現中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1					



3 公立高校の設置学科及び学級数の状況（令和2年度）

学校名	学科	定員	学級数	設置学科（定員）
花巻北	普	240	6	普通科(240)
花巻南	普	200	5	普通科(人文・自然科学学系120、スポーツ健康科学学系40、国際科学学系40)
花巻農業	農	120	3	生物科学科(40)、環境科学科(40)、食農科学科(40)
花北青雲	工・商・家	160	4	【工業】情報工学科(40)、【商業】ビジネス情報科(80)、【家庭】総合生活科(40)
大迫	普	40	1	普通科(40)
黒沢尻北	普	240	6	普通科(240)
北上翔南	総	200	5	総合学科(200) ※人文、自然、情報、環境の4系列あり。
黒沢尻工業	工	240	6	機械科(40)、電気科(40)、電子科(40)、電子機械科(40)、土木科(40)、材料技術科(40)
西和賀	普	40	1	普通科(40)

1,480 37



学科	普通	理数	農業	工業	商業	水産	家庭	総合	体育	計
学級数	19	0	3	7	2	0	1	5	0	37
定員	760	0	120	280	80	0	40	200	0	1,480

県立高校の教育課程の形態

◆ 普通高校

普通教育を主とする普通科高校。(学級単位で専門科目を学べるコースを設けている学校もある。)《盛岡第一高校、盛岡第二高校 等》

◆ 総合選択制高校

普通科にいくつかの「学系」を設け、生徒が自分の興味・関心、進路希望に応じて各学系に入学し学習するとともに、必要に応じて他の学系の教科・科目も選択できるなど幅広く学習できる普通高校。

《不来方高校、花巻南高校》

◆ 総合学科高校

進路に応じる複数の「系列」があり、2年次から「系列」や普通教科と専門教科のどちらも選択でき、総合的に学ぶことができる単位制高校。

《紫波総合高校、北上翔南高校、岩谷堂高校、一関第二高校、久慈東高校、一戸高校》

◆ 専門高校

農業、工業、商業、水産、家庭等の専門教科を主として学ぶ専門学科高校。

《盛岡農業高校、盛岡工業高校 等》

◆ 総合的な専門高校

複数の専門学科を併設し、所属する学科の科目以外に、関連する他の専門分野の教科・科目を併せて履修することができる専門高校。

《花北青雲高校、大船渡東高校、釜石商工高校》

◆ 定時制課程・通信制課程

定時制課程は、夜間又は特別な時間帯等に授業を行なう課程。通信制課程は、通信の方法により高校教育を行う課程。

《古宮高校定時制課程、杜陵高校通信制課程 等》

◆ 多部制・単位制高校

特定の時間帯で授業を行なう課程(部)を複数組み合わせ設置し、生徒がいずれかの時間帯に所属して学ぶことができる単位制の定時制高校。

《杜陵高校、杜陵高校奥州校、久慈高校長内校》

◆ 中高一貫教育校

中学校と高校の課程を調整し、一貫性を持たせた体系的な教育方式を行っている学校。

《併設型：一関第一高校附属中学校》

《連携型：葛巻地区、軽米地区》

<教育課程の形態等(例)>

普通高校	必修		選択
	普通教科・科目		芸術等

* 普通科、理数科、体育科を含む。 ※コース制は、必修に特定の専門科目が含まれる。

総合選択制高校	学系	必修		選択		
		共通	学系内	学系内	自由	
	人文理数	普通教科・科目	普通教科・科目	専門科目	他の学系の科目、普通専門科目	
	芸術	〃	〃	〃		
	外国語	〃	〃	〃		
体育	〃	〃	〃			

総合学科高校	系列例	必修	選択	
		普通教科・科目	系列選択科目	自由選択科目
	人文科学 自然科学 生活・福祉 情報・経済 環境緑化 海洋科学	普通教科・科目 原則履修 産業社会と人間	人文→地理A等 自然→数学Ⅲ等 生活→服飾手芸等 情報→簿記等 環境→草花等 海洋→漁船運用等	倫理 スポーツ ビジュアルデザイン 音楽理論 生活の書 他多数

専門高校	必修		選択
	普通教科・科目	専門科目	専門科目・芸術等

総合的な専門高校	学科	必修		選択	
	農業	普通教科・科目	農業科目	他分野の専門科目	芸術等
	工業		工業科目		
	商業		商業科目		

定時制課程	(夜間又は特別な時間帯等に授業)	夜間
		17時～21時

※ 時間帯を長くして、科目を多く設定し、履修させることにより3年で卒業可能な学校がある。

通信制課程	レポート(自宅学習)主体、スクーリング(面接指導)、試験で単位取得
-------	-----------------------------------

多部制・単位制高校	午前部	午後部	夜間部
	9時～13時	13時～17時	17時～21時

※ 特定の時間帯を複数設置、単位制で生徒個々に時間割を決められる。

※ 所属する部以外の部の科目を履修することで、3年で卒業も可能。

併設型中高一貫教育校	(選抜)	中学校	(無選抜)	高等学校
------------	------	-----	-------	------

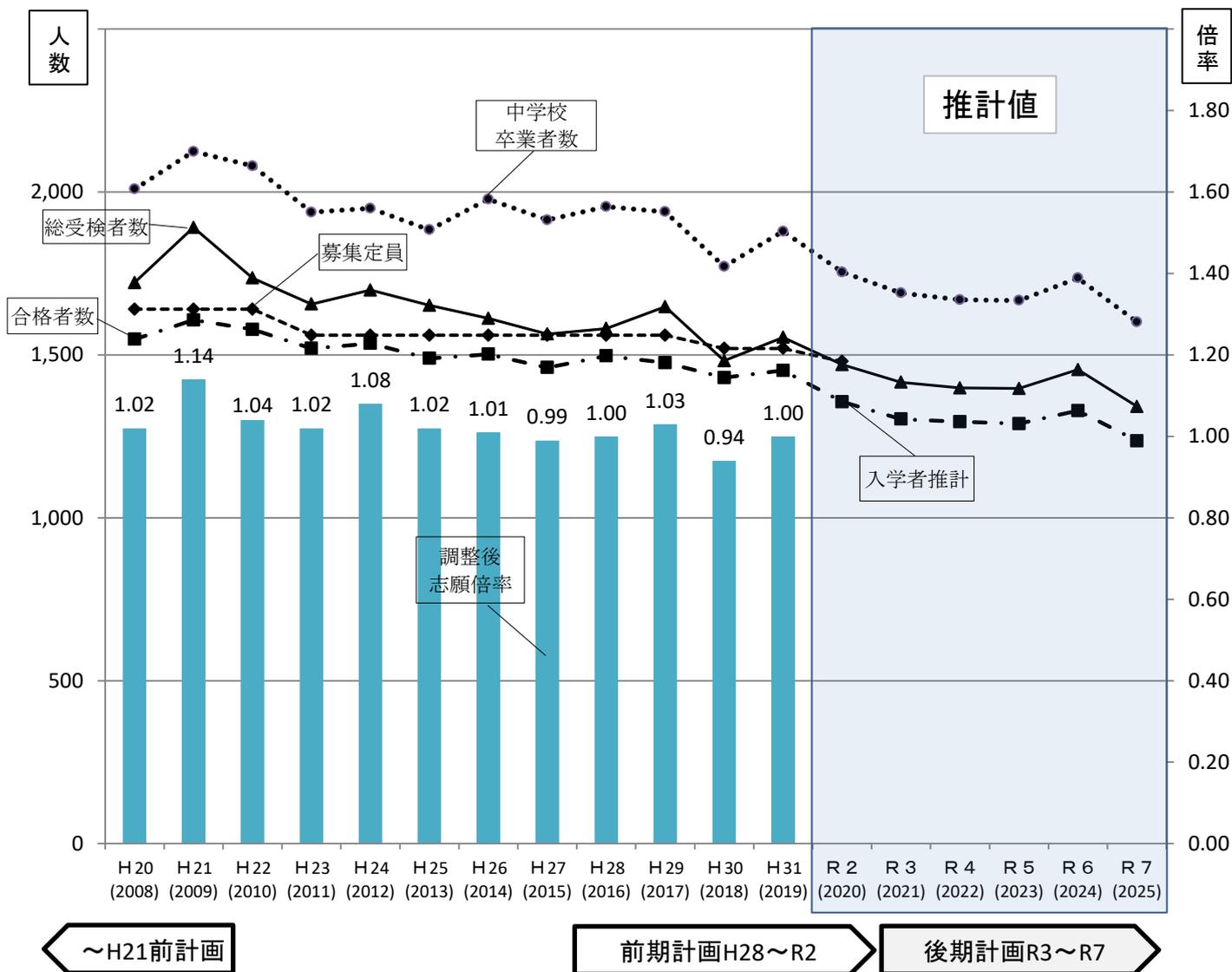
※ 中学校の設置形態の違いにより、同一学校型(中等教育学校)、併設型、連携型の3種類がある。

県立高校(全日制)の入試状況の推移(岩手中部ブロック)

年 度	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)
中学校 卒業生数	2,009	2,124	2,080	1,938	1,950	1,884	1,978	1,914	1,955	1,939	1,771	1,879	1,754	1,690	1,669	1,667	1,736	1,601
募集定員	1,640	1,640	1,640	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,520	1,520	1,480	—	—	—	—	—
合格者数 (入学者推計)	1,548	1,607	1,578	1,520	1,535	1,489	1,502	1,461	1,497	1,476	1,430	1,452	1,356	1,303	1,295	1,289	1,329	1,236
総受検者数	1,722	1,891	1,736	1,656	1,699	1,652	1,612	1,564	1,581	1,648	1,482	1,554	1,470	1,416	1,399	1,397	1,455	1,342
欠 員	▲92	▲33	▲62	▲40	▲25	▲71	▲58	▲99	▲63	▲84	▲90	▲68	—	—	—	—	—	—
調整後 志願倍率	1.02	1.14	1.04	1.02	1.08	1.02	1.01	0.99	1.00	1.03	0.94	1.00	—	—	—	—	—	—

※令和2年度以降の入学者推計はH29～31年度の3年間の進学率を基にした推計値

※令和2年度以降の総受検者数はH29～31年度の(総受検者数/中学校卒業生数)の平均値0.838を中学校卒業生数にかけた値

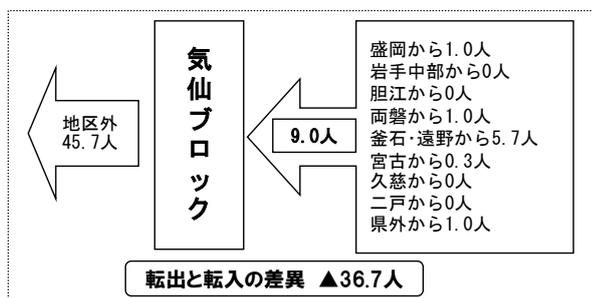
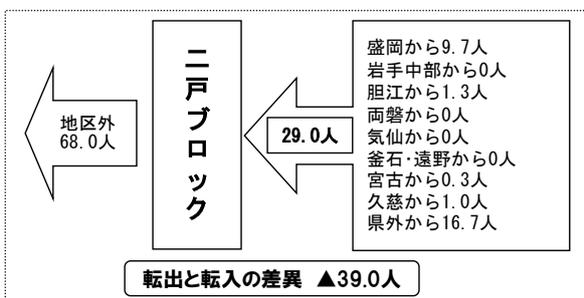
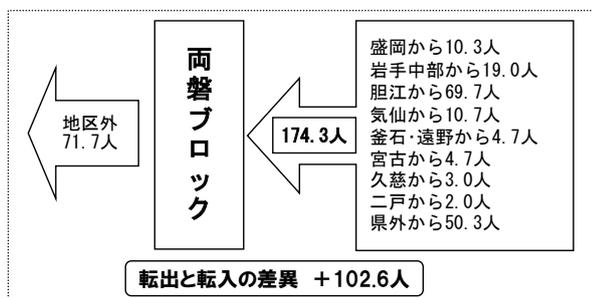
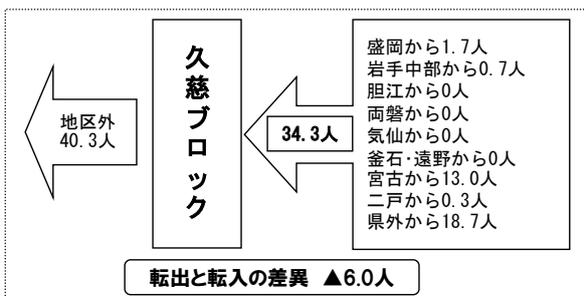
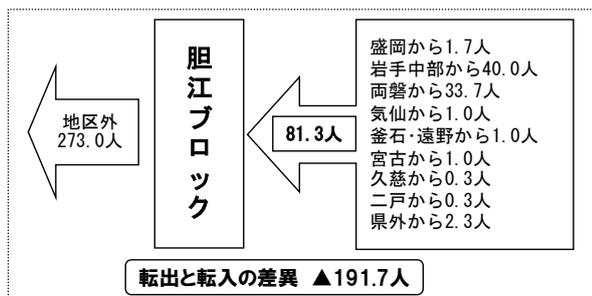
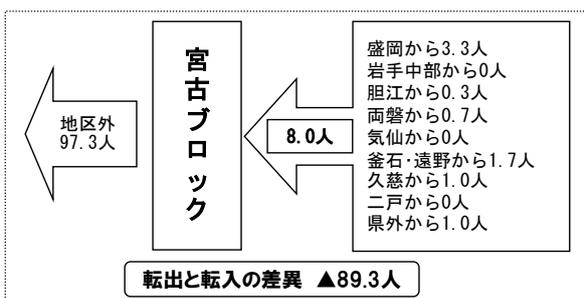
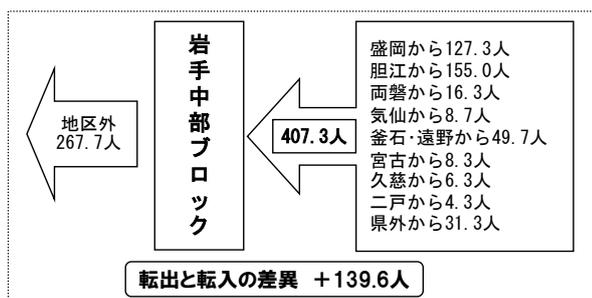
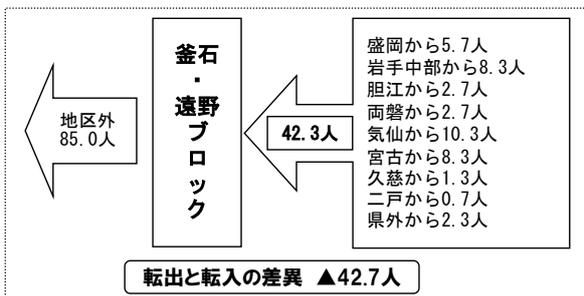
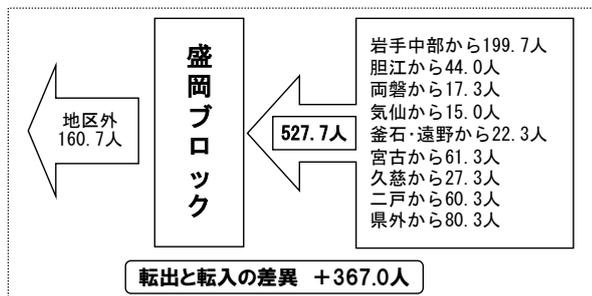


ブロック間交流の状況（3年間(H29・30・31年度)の平均)

※ 公立高校の全日制・定時制及び私立高校を対象（過年度卒を含む）

※ 転入 ⇒ 他のブロック及び県外からの転入者数

※ 転出 ⇒ 他のブロックへの転出者数（県外転出を除く）



中学生の進路希望等に関するアンケート結果

調査の概要

- (1) 調査対象 県内国公立中学校第3学年及び義務教育学校第9学年の生徒 (161校 11,074人)
 (参考) H27: 県内公立各中学校第3学年の1学級を抽出 165学級4,546人
- (2) 調査時期 平成30年7月6日～8月3日

質問1 卒業後の進路をどのように考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	10,468	3,937	1,779	1,111	1,112	474	548	615	476	416
① 全日制の公立高校		82.9%	84.4%	81.5%	76.0%	81.2%	86.5%	85.8%	85.5%	83.8%	84.9%
② 全日制の私立高校		9.1%	9.4%	10.3%	12.8%	9.9%	5.5%	6.6%	4.4%	5.5%	6.5%
③ 高等専門学校(高専)		2.7%	1.8%	2.6%	4.5%	3.6%	2.5%	2.4%	4.2%	2.9%	2.9%
④ 定時制の高校		0.6%	0.4%	0.4%	1.0%	0.5%	0.6%	0.9%	1.0%	1.9%	1.0%
⑤ 通信制の高校		0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%	0.4%	0.0%	0.2%	0.7%
⑥ 就職(含 家業)		0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%
⑦ その他(含 専門学校など)		0.3%	0.3%	0.1%	0.5%	0.2%	0.4%	0.0%	0.3%	1.1%	1.0%
⑧ まだわからない		4.1%	3.5%	4.7%	5.0%	4.0%	4.2%	3.8%	4.4%	4.6%	3.1%

質問2 進学先として質問1で答えた学校を希望する(考えた)最も大きな理由は何ですか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,967	3,774	1,683	1,046	1,059	449	526	585	446	399
① 学びたい学科があるから		17.7%	16.5%	20.4%	22.5%	19.2%	15.8%	10.8%	17.8%	15.2%	15.5%
② 部活動が盛んだから		15.1%	16.9%	16.2%	14.1%	12.8%	12.7%	14.8%	10.4%	13.7%	14.3%
③ 進学・就職に有利だと思うから		45.1%	46.5%	46.9%	45.0%	42.3%	42.5%	44.3%	46.7%	45.5%	32.1%
④ 地元の学校だから		9.3%	5.4%	5.8%	5.3%	12.6%	17.6%	20.9%	14.5%	16.6%	22.3%
⑤ 働きながら学べるから		0.5%	0.3%	0.2%	0.7%	0.8%	0.2%	1.0%	0.7%	1.1%	0.3%
⑥ 家族・親・先生がすすめてくれるから		4.0%	4.3%	3.3%	4.9%	4.8%	4.0%	2.9%	3.1%	2.2%	4.5%
⑦ 雰囲気やイメージがよいから		5.1%	6.5%	4.8%	4.6%	3.5%	4.5%	2.5%	3.1%	3.6%	8.0%
⑧ その他		3.2%	3.6%	2.4%	3.0%	4.1%	2.7%	2.9%	3.8%	2.0%	3.0%

質問3 進学先としてどの学科を希望しますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,987	3,780	1,687	1,047	1,063	452	526	585	448	399
① 普通科		56.0%	64.6%	48.2%	44.3%	42.8%	67.9%	61.2%	57.6%	53.1%	54.1%
② 理数科		3.1%	2.7%	2.4%	3.9%	7.0%	0.7%	5.9%	0.9%	0.7%	2.0%
③ 外国語に関する学系		1.1%	0.9%	2.9%	0.7%	0.6%	0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	0.5%
④ 体育に関する学科・学系		2.5%	3.4%	4.4%	1.5%	1.1%	1.5%	1.5%	0.2%	1.1%	0.5%
⑤ 芸術に関する学系		1.0%	1.3%	0.6%	1.2%	0.7%	0.9%	0.6%	0.2%	0.9%	1.3%
⑥ 農業に関する学科		2.9%	2.8%	5.3%	1.8%	2.5%	2.2%	2.7%	1.0%	0.9%	3.8%
⑦ 工業に関する学科		10.4%	6.9%	11.9%	17.9%	14.3%	8.8%	11.2%	8.5%	7.4%	14.3%
⑧ 商業に関する学科		6.3%	7.5%	6.1%	6.9%	2.2%	4.4%	5.5%	16.1%	0.4%	0.5%
⑨ 水産に関する学科		0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	1.5%	0.0%	2.2%	1.8%	0.0%
⑩ 家庭に関する学科		2.7%	2.0%	4.0%	3.1%	2.8%	3.8%	1.1%	3.9%	2.5%	2.5%
⑪ 総合学科		6.9%	1.9%	8.1%	11.8%	18.8%	1.3%	2.3%	0.3%	19.2%	12.5%
⑫ どの学科でもよい		1.2%	1.1%	1.1%	1.7%	1.1%	0.7%	1.5%	1.9%	1.3%	0.8%
⑬ その他		1.4%	1.7%	0.7%	1.0%	1.9%	1.1%	1.0%	1.2%	2.0%	0.8%
⑭ わからない		4.2%	3.1%	4.4%	4.1%	4.2%	4.4%	4.9%	5.5%	8.3%	6.5%

質問4 進学したい学校に当てはまるのはどれですか。 ※質問3で「普通科・理数科」と答えた中で、県立高校を希望する生徒のみ回答(盛岡市立を除く)

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	4,912	2,093	723	388	434	272	306	296	207	193
① 学区内にある		79.2%	84.5%	71.6%	68.8%	81.3%	88.2%	81.7%	76.7%	70.0%	63.2%
② 学区外にある		14.0%	9.9%	22.1%	22.2%	13.8%	6.6%	12.4%	14.9%	15.5%	23.3%
③ その他		1.3%	1.0%	0.1%	1.3%	1.6%	0.7%	0.3%	0.3%	8.7%	3.6%
④ まだ決まっていない		5.5%	4.6%	6.1%	7.7%	3.2%	4.4%	5.6%	8.1%	5.8%	9.8%

質問5 高校の学びについて、あなたの考えに近いものはどれですか。 ※質問3で専門学科及び総合学科と答えた生徒のみ回答

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	2,848	778	570	421	412	97	118	184	143	125
① 専門分野を学びたい		58.2%	63.8%	57.0%	53.7%	51.9%	68.0%	53.4%	65.2%	51.7%	59.2%
② 専門分野以外も学びたい		14.8%	16.1%	16.1%	16.6%	10.9%	15.5%	14.4%	10.9%	9.8%	19.2%
③ 入学後に専門分野を決めてから学びたい		13.4%	8.9%	13.3%	15.2%	21.8%	6.2%	13.6%	11.4%	18.2%	11.2%
④ よくわからない		13.6%	11.3%	13.5%	14.5%	15.3%	10.3%	18.6%	12.5%	20.3%	10.4%

質問6 高校での部活動について、あなたの考え方に当てはまるものはどれですか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,941	3,763	1,674	1,040	1,063	451	524	583	446	397
① 入部したい部を決めている		48.6%	47.3%	51.9%	52.9%	48.1%	47.7%	47.7%	43.1%	43.9%	53.1%
② 入学後、多くの部の中から見学等を通して選びたい		42.4%	44.0%	39.1%	37.9%	42.8%	41.9%	44.1%	47.0%	46.9%	38.3%
③ ①、②のどちらでもない		3.1%	3.3%	3.5%	3.1%	2.9%	3.3%	2.1%	2.4%	3.4%	2.3%
④ わからない		5.9%	5.4%	5.6%	6.2%	6.2%	7.1%	6.1%	7.5%	5.8%	6.3%

質問7 通学の範囲をどの程度まで可能と考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,955	3,767	1,679	1,042	1,061	452	524	584	448	398
① 主に徒歩、自転車等で通学可能な範囲まで		29.2%	34.0%	26.6%	24.7%	31.1%	21.5%	24.4%	24.5%	32.8%	19.6%
② 主にバス、列車で通学可能な範囲まで		43.2%	47.6%	48.4%	37.6%	38.5%	35.8%	45.6%	40.9%	28.8%	30.7%
③ 保護者が自家用車で送迎できる範囲まで		16.4%	9.5%	15.0%	26.0%	19.5%	30.5%	16.2%	16.8%	23.7%	29.9%
④ 自宅から通学できない範囲でもよい		5.0%	3.9%	4.7%	4.6%	5.7%	7.5%	6.3%	6.5%	5.8%	8.3%
⑤ その他		0.8%	0.7%	0.8%	1.2%	0.5%	0.7%	0.8%	1.4%	0.2%	1.5%
⑥ わからない		5.4%	4.4%	4.5%	6.0%	4.7%	4.0%	6.7%	9.9%	8.7%	10.1%

質問8 通学(片道)にかけてもよいと思う時間をどの程度までと考えますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,953	3,765	1,678	1,046	1,059	452	524	583	448	398
① 30分以内まで		28.1%	23.1%	27.6%	29.5%	29.8%	34.3%	33.8%	36.2%	37.7%	33.4%
② 1時間以内まで		51.8%	57.8%	51.8%	50.9%	47.4%	49.8%	43.7%	43.7%	42.6%	44.5%
③ 1時間30分以内まで		10.2%	11.8%	10.5%	9.5%	11.0%	6.0%	9.0%	7.0%	8.0%	8.0%
④ 2時間以内まで		2.3%	2.3%	2.3%	1.9%	3.3%	1.5%	2.3%	1.7%	2.9%	1.8%
⑤ その他		1.0%	0.7%	1.3%	1.0%	1.3%	1.8%	1.3%	0.3%	0.7%	2.0%
⑥ わからない		6.5%	4.4%	6.4%	7.3%	7.2%	6.6%	9.9%	11.0%	8.0%	10.3%

質問9 高校で勉強や部活動をする上で、どれくらいの規模(学級数)の高校がよいと思いますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,955	3,767	1,679	1,044	1,061	451	524	584	447	398
① 各学年、1学級(40人)規模の高校		9.1%	7.6%	8.9%	7.7%	8.6%	11.1%	11.6%	15.4%	12.1%	10.3%
② 各学年、2~3学級(80~120人)規模の高校		21.8%	14.6%	22.0%	24.9%	28.6%	25.5%	32.4%	26.7%	24.4%	34.4%
③ 各学年、4~6学級(160~240人)規模の高校		41.4%	40.8%	47.5%	45.6%	42.8%	44.8%	32.1%	31.2%	39.4%	32.9%
④ 各学年、7学級以上(280人以上)の規模の高校		8.1%	16.8%	3.7%	2.6%	1.7%	1.3%	2.5%	4.3%	1.6%	3.5%
⑤ その他		0.4%	0.5%	0.1%	0.5%	0.6%	0.2%	0.4%	0.7%	0.2%	1.3%
⑥ わからない		19.2%	19.7%	17.8%	18.8%	17.8%	17.1%	21.0%	21.7%	22.4%	17.6%

質問10 高校卒業後の進路についてどのように考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,957	3,764	1,682	1,045	1,062	451	524	584	447	398
① 大学・短大へ進学したい		35.9%	42.3%	33.4%	32.0%	31.2%	35.7%	34.4%	29.3%	28.4%	30.7%
② 専門学校(専修学校、各種学校)へ進学したい		15.6%	14.2%	17.5%	15.2%	15.2%	14.9%	17.2%	15.8%	16.6%	21.6%
③ 進学したいと思っているが、大学か短大か専門学校かは未定である		13.7%	13.9%	12.4%	14.7%	15.3%	18.6%	8.0%	13.5%	13.0%	14.1%
④ 岩手県内で就職したい		7.5%	6.8%	9.6%	6.4%	6.0%	6.4%	10.9%	9.1%	7.6%	6.3%
⑤ 岩手県外で就職したい		2.5%	1.7%	1.9%	2.8%	4.7%	2.7%	2.7%	4.6%	2.5%	2.8%
⑥ 就職したいが、岩手県内か県外かは未定である		8.7%	6.3%	10.9%	9.8%	11.5%	5.5%	10.3%	9.6%	9.2%	11.1%
⑦ まだわからない		16.0%	14.8%	14.3%	19.1%	16.1%	16.2%	16.6%	18.2%	22.8%	13.6%

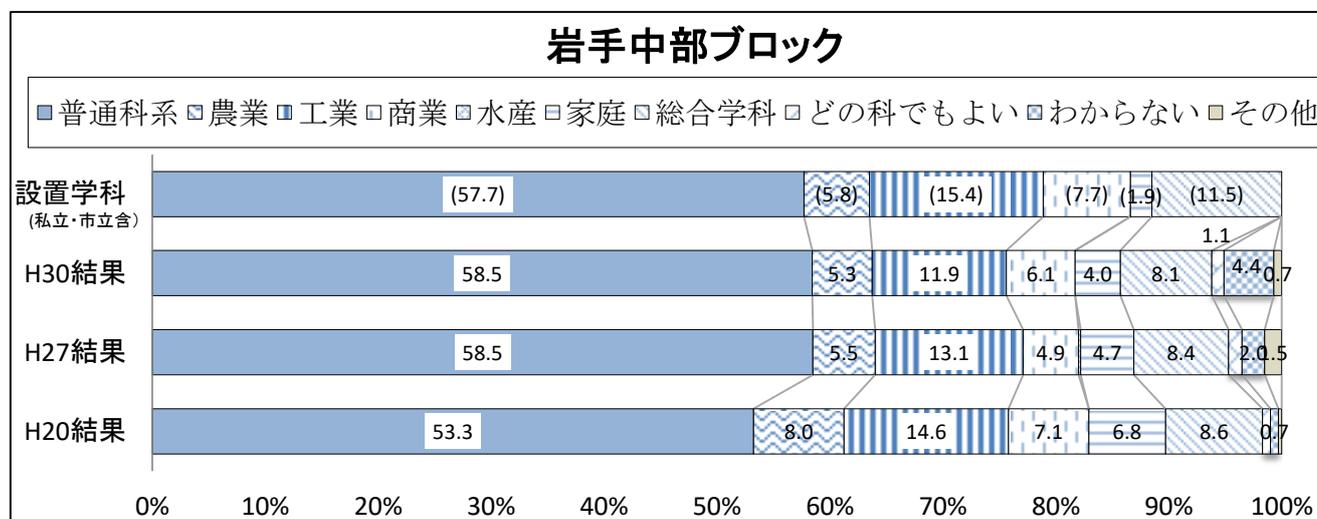
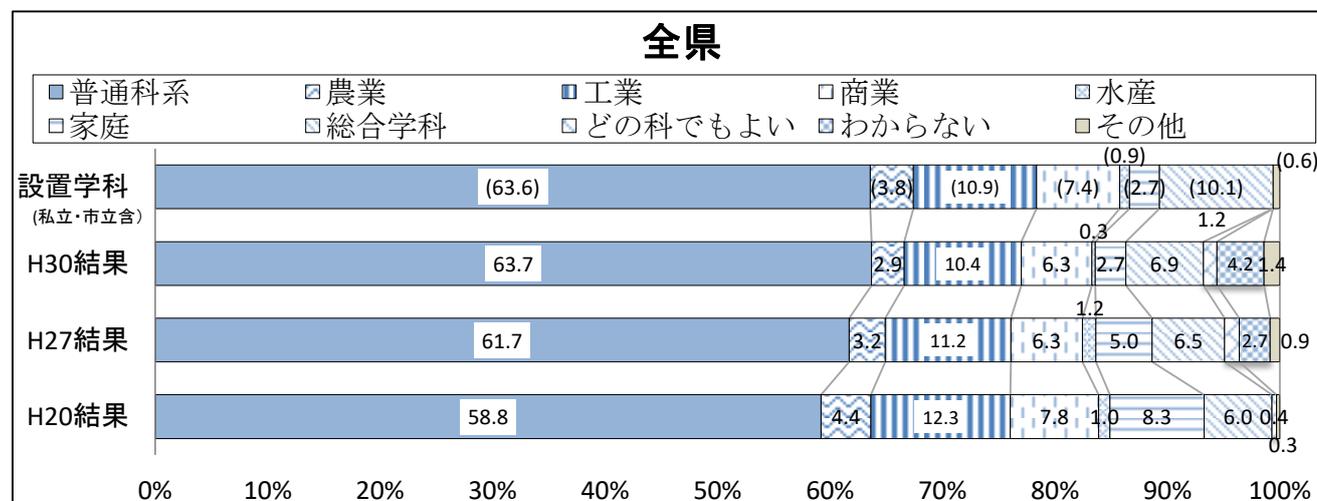
質問11 10年後どこに住んでいると思いますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	10,468	3,937	1,779	1,111	1,112	474	548	615	476	416
① 今住んでいる市町村に住んでいる		11.3%	12.9%	12.8%	9.1%	8.4%	13.1%	10.2%	10.2%	9.9%	7.7%
② 岩手県内に住んでいる		15.3%	14.2%	16.6%	16.3%	14.0%	11.6%	16.6%	18.2%	12.4%	22.8%
③ 岩手県外に住んでいる		26.5%	26.8%	25.0%	24.9%	30.3%	30.2%	25.7%	25.2%	23.9%	26.9%
④ まだわからない		46.8%	46.2%	45.6%	49.7%	47.3%	45.1%	47.4%	46.3%	53.8%	42.5%

質問3 進学先としてどの学科を希望しますか。

(H27 通学可能な範囲に次の学科がもし全てあるとしたら、進学先としてどの学科を希望しますか。)

選 択 肢	普通科系学科						職業系専門学科					計	総合学科	どの科でもよい	わからない	その他	
	普通科	理数科	外国語	体育	芸術	計	農業	工業	商業	水産	家庭						
全 県	設置学科	56.0%	1.5%	0.8%	1.2%	0.4%	59.8%	5.0%	13.9%	7.3%	1.2%	1.5%	29.0%	11.2%			0.0%
	(私立・市立含)	(60.7%)	(1.2%)	(0.6%)	(0.9%)	(0.3%)	(63.6%)	(3.8%)	(10.9%)	(7.4%)	(0.9%)	(2.7%)	(25.7%)	(10.1%)			(0.6%)
	H30結果	56.0%	3.1%	1.1%	2.5%	1.0%	63.7%	2.9%	10.4%	6.3%	0.3%	2.7%	22.6%	6.9%	1.2%	4.2%	1.4%
	H27結果	48.6%	5.7%	2.1%	2.7%	2.6%	61.7%	3.2%	11.2%	6.3%	1.2%	5.0%	26.9%	6.5%	1.3%	2.7%	0.9%
岩 手 中 部 ブ ロ ッ ク	H20結果	47.1%	4.6%	1.6%	3.0%	2.5%	58.8%	4.4%	12.3%	7.8%	1.0%	8.3%	33.8%	6.0%	0.4%	0.7%	0.3%
	設置学科	44.7%	0.0%	2.6%	2.6%	0.0%	50.0%	7.9%	18.4%	5.3%	0.0%	2.6%	34.2%	15.8%			0.0%
	(私立・市立含)	(53.8%)	(0.0%)	(1.9%)	(1.9%)	(0.0%)	(57.7%)	(5.8%)	(15.4%)	(7.7%)	(0.0%)	(1.9%)	(30.8%)	(11.5%)			(0.0%)
	H30結果	48.2%	2.4%	2.9%	4.4%	0.6%	58.5%	5.3%	11.9%	6.1%	0.0%	4.0%	27.3%	8.1%	1.1%	4.4%	0.7%
H27結果	46.0%	4.9%	2.6%	3.2%	1.8%	58.5%	5.5%	13.1%	4.9%	0.2%	4.7%	28.4%	8.4%	1.2%	2.0%	1.5%	
	H20結果	41.9%	5.0%	2.2%	2.4%	1.8%	53.3%	8.0%	14.6%	7.1%	0.0%	6.8%	36.5%	8.6%	0.7%	0.7%	0.3%

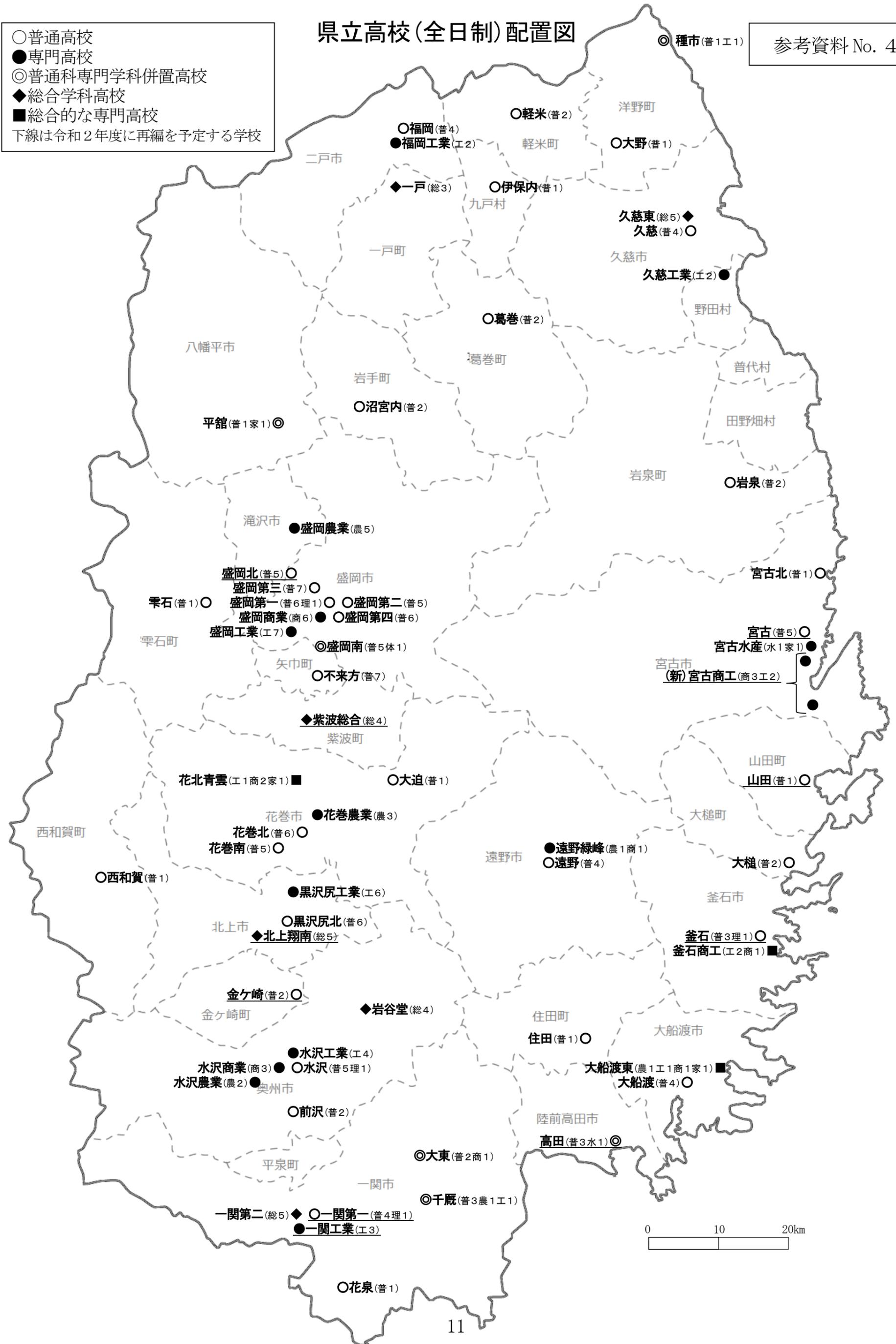


全県では、平成27年のアンケート結果より普通科系志望が若干増加している。設置学科割合（私立、盛岡市立高校を含む）は、中学生の希望する学科の割合とほぼ一致し、全県で見るとバランスの取れた学科配置となっている。岩手中部ブロックでは、家庭科を希望する割合が、設置学科割合（私立、盛岡市立高校を含む）より高くなっている。

県立高校(全日制)配置図

参考資料 No. 4

- 普通高校
 - 専門高校
 - ◎普通科専門学科併置高校
 - ◆総合学科高校
 - 総合的な専門高校
- 下線は令和2年度に再編を予定する学校



地域検討会議（第2回）の概要

1 実施状況

ブロック名	ブロック内 市町村名	実施日時	会 場	出席者数（事務局を除く）				
				会 議 構成員	県議会 議 員	県 立 高校長	一 般 傍 聴	報 道 関 係
盛岡①	滝沢市、雫石町、 葛巻町、矢巾町	5月28日（火） 10:00～12:00	盛岡市総合福祉センター	15	5	6	3	2
盛岡②	盛岡市、八幡平市、 岩手町、紫波町	5月29日（水） 10:00～12:00	盛岡市総合福祉センター	16	5	12	3	2
岩手中部	花巻市、北上市、 西和賀町	5月20日（月） 15:00～17:00	花巻市交流会館	14	6	9	8	2
胆 江	奥州市、金ヶ崎町	5月27日（月） 10:00～12:00	奥州市水沢地区センター	11	3	8	1	2
両 磐	一関市、平泉町	5月31日（金） 14:00～16:00	一関地区合同庁舎	9	5	6	2	4
気 仙	大船渡市、陸前高 田市、住田町	5月20日（月） 9:30～11:30	大船渡地区合同庁舎	12	0	4	2	2
釜石・遠野	釜石市、遠野市、 大槌町	5月17日（金） 14:00～16:00	あえりあ遠野	13	2	5	6	1
宮 古	宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村	5月24日（金） 14:00～16:00	シートピアなあと	15	1	7	5	1
久 慈	久慈市、洋野町、 野田村、普代村	5月30日（木） 10:00～12:00	久慈地区合同庁舎	17	2	5	5	2
二 戸	二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町	5月14日（火） 10:00～12:00	一戸町コミュニティセンター	18	3	5	1	3
計				140	32	67	36	21
				296				

2 会議内容

(1) 平成31年度の入試状況について

平成31年度の入試状況について、資料に基づき事務局から説明を行った。

(2) 第1回地域検討会議における主な意見等

第1回地域検討会議（平成30年12月～平成31年2月にかけて開催）における主な意見等について、資料に基づき事務局から説明を行った。

(3) 後期計画の策定に向けた意見交換

下記をテーマとして設定し、本県の高等学校教育の現状や、地域ごとの高校のあり方について意見交換を行った。

＜意見交換テーマ＞

- ・小規模校のあり方について
- ・少人数学級について

3 主な意見等

- ・教育の機会の保障の観点から、小規模校は存続させる方向で検討を進めるべきである。
- ・小規模校の教育の質を維持するとともに、魅力化に向けた取組がさらに必要である。
- ・小規模校については、地域と連携した教育モデルの構築が必要である。
- ・その他、ICTを活用した遠隔教育の推進、少人数学級の導入に向けた国に対する教員定数制度の改善要望、小規模校の魅力化に向けた自治体の支援等、様々な意見があった。

地域検討会議（第2回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡① (滝沢市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	5月28日(火) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月22日に行われた定例記者会見において、「高校再編については、入学者数等の数字ありきでの議論はしない。」との県教育長の発言を高く評価している。 ・ 少子化の進行により、盛岡市内の学校についても統合しなければ、周辺地区の小規模校の定員が充足しないのではないかと。 ・ 葛巻高校の学級減は延期となっているが、再編計画の対象となっている地域の住民は安心して生活することができない。各市町村に最低1校は2学級以上の高校を存続させるべきである。 ・ 再編計画は数字ありきと感じている。雫石高校は、伝統芸能等、地元で根差した高校なので存続させるべきである。 ・ 特に生徒数の減少が著しい地域の小規模校については、予算措置により少人数学級を導入し、生徒を呼び込む取組が必要である。 ・ 県教委には、市町村と連携しながら県外生徒の受入れについて進めていただきたい。
盛岡② (盛岡市、八幡平市、 岩手町、紫波町)	5月29日(水) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の認識として、地方力の向上のためには、小規模校を大切にすべきとの認識が高まっており、今後の学校教育においては、IoT技術を活用した「教育の質の保証と機会の保障」の両立に向けた取組が重要となる。 ・ 地元中学校の生徒は地元の高校に全員を入学させ、ITを活用した教育を推進する等、全国に先駆けた制度化が大切である。 ・ 1学級校の統合基準は、「20人以下の入学者数が2年連続」であるが、基準が定められていることで、入学者の確保に向けた努力ができる面もある。 ・ 総合学科高校の系列の見直しにより、学校自体の存在価値を見直す時期にきているのではないかと。 ・ 再編計画には、各市町村における地方創生の視点が盛り込まれているが、県教委は知事部局との連携をさらに図るべきである。 ・ 総合学科については現状維持ではなく、将来を見据えた視点での魅力づくりが必要である。 ・ 県がICT技術を導入する方針については支持するものであるが、教育の基本は「face to face」である。
岩手中部 (花巻市、北上市、 西和賀町)	5月20日(月) 15:00~17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校は県教委として存続させることを前提とした上で、高校再編の方向性を明確に示すべきである。 ・ 小規模校の存続については、他県のように、地元からの入学者の割合が高いこと、学校活性化地域協議会の設置、多様な生徒の受入れ体制を整備していること等を考慮した基準も必要である。 ・ まちづくりや文化の継承には、地域の将来を担う人材育成が重要である。北上市内の中学校から、4割の生徒が地区外に進学している状況に驚いており、今後、県教委と情報交換を行い対応策を講じていく。 ・ 地域に貢献する高校こそ、地域に必要な高校であり、小規模校については地域と連携した教育モデルの構築が必要である。 ・ 少人数学級の導入により、特に専門学科においては専門性を高める教育が可能となる。現行制度の中でどのようなことができるのか、財政的な負担等について具体的に示しながら議論する必要がある。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
胆 江 (奥州市、 金ケ崎町)	5月27日(月) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> 岩手においては、教育の質の保証も大切であるが、地理的・経済的制約を受けている生徒でも希望する進路を実現できるよう、教育の機会の保障を重視すべきである。また、志願者数が少ないことを理由として、安易な統合を行うことは避け、地域の学校を残すための方策を自治体とともに考えることが重要である。 第1回地域検討会議において、会議構成員から出された様々な意見や提案に対しての具体的な方策案を県教委は示すべきである。その方策案について、さらに深い議論を展開していくことにより、より良い後期計画を策定できるものと考えている。 本県の現状として、少人数学級の導入を実現しなくても実質的な少人数教育が行われていることは承知した。少人数学級の導入によって教員数に不利益が生じないように、国に対する教員定数制度の改善要望を継続してほしい。
両 磐 (一関市、平泉町)	5月31日(金) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> 農業・工業については特色ある学科を増やすなど、産業人材の育成のあり方についての方向性を示すべきである。 全県的に生徒数の減少が続くことから、高校再編は避けられないことであり、再編計画は計画通りに進めるべきである。 地域の子どもたちが将来的に地元に戻り、地域に貢献する人材として活躍するためには、地域の学校で地域の文化を学ぶ教育体制を確立し、推進することが大切である。 全国的にICTを活用した遠隔授業への取組が推進されており、このような取組は、中山間地等に設置された小規模校で学ぶ生徒の学力を保証するために有効である。 現行制度において本県の高校教育に少人数学級を導入することは難しいことは理解しているが、モデル的に少人数学級を導入し、先進的に制度改革に取り組むことがあってもよいのではないか。
気 仙 (大船渡市、陸前高田市、住田町)	5月20日(月) 9:30～11:30	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に少子高齢化が継続することから、学校ではそのような社会の状況を伝える教育が必要である。小規模校は授業の開設科目等に制限があることから、中学生の高校選択にあたり、生徒・保護者に対する情報公開を積極的に行う必要がある。 大学入試制度の改革期でもあり、教育の質の保証はさらに重要となる。都市部と中山間地・沿岸部では教育環境が異なることから、知恵を出しながら岩手県としての取組を進めていく必要がある。 今後のさらなる少子化の中、学校規模の現状維持は難しいことから、小規模校については、生徒1人ひとりへの教育の質をどのように高めていくかが課題となる。 教育現場において教員数の確保は大切であり、現状の制度では少人数学級の導入が難しいことから、県教委の方針のとおり進めるべきである。 住田高校は、1学級を2学級編成とした少人数教育により進路実績を上げているので、教員が働きやすい環境となるよう、工夫をしながら少人数教育を進めていく必要がある。
釜石・遠野 (釜石市、遠野市、大槌町)	5月17日(金) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> 地域にとって「必要な学校」は、様々な観点から地域にとって「貢献している学校」であると言い換えられる。高校生が地域と密接に関わりあうことで、地域の活性化と文化の継承に資している。 高校生は地域創生の新たなパートナーである。高校の統合は貴重な地域の担い手がなくなることに繋がるので避けなければならない。現在の仕組みで立ち行かなければ、岩手の現状に合致した新たな枠組による「岩手の独自モデル」を創造しなければならない。 全県的な少子化に伴う高校再編が進められていくことに、大きな危機感を持っている。町としても、多くの子どもたちに地元の高校を選んでもらえるよう、学校の魅力化等への支援を行っていく所存である。 高校において、より良い学びの環境づくりに向けて少人数学級の導入が必要である。高校標準法等の国の制度により教員定数が不足するのであれば、地域の人材等を活用していく方策についても検討してよいのではないか。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
宮古 (宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村)	5月24日(金) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山田高校の統合は、町の過疎化に直結することから反対である。地域の学校の存続に向けてどのように取り組んでいくか、今後のさらなる少子化の進行を踏まえ、高校再編は慎重に検討していく必要がある。 ・ 学校の魅力化に向けて教育活動の多様化を図るためには、一定規模が必要であるが、きめ細かな教育を受けられる小規模校のメリットも尊重し、近隣校との柔軟な連携等により解決を図るべきである。 ・ いわて県民計画アクションプランにおける沿岸広域振興圏の取組方向として、地域経済を牽引する産業への就業者の定着を重点項目としているが、その役割を担うのが高校である。 ・ 田野畑村には高校が設置されていないことから、小中高の教育が継続するような体制を整備するべきである。 ・ 国に対する教員定数制度の改善要望を継続しているにもかかわらず、国が制度を改善する動きがないのであれば、要望の仕方を工夫していくべきではないか。
久慈 (久慈市、洋野町、 野田村、普代村)	5月30日(木) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の機会を保障する観点から、小規模校の統合を行うべきではない。 ・ 地域の活性化には小規模校の存在が大切であり、地元の産業等について理解をさせた上で、将来的に地域を担う人材となるよう、キャリア教育を充実させる必要である。 ・ 地域の高校を残し、地域社会で活躍する人材の育成が大切である。また、工業等の専門学科を卒業した生徒が大学に進学できる仕組みづくりも必要である。 ・ 学校は地域の人材を育成するために必要な存在である。地域との連携による地元就職の視点から、特に1学級校で学ぶ生徒に対し、インターンシップ等を通じて地域企業の魅力を伝えることが大切である。 ・ 久慈地区内の学校においても、ITを導入した学習ができるような教育環境の整備が必要である。 ・ 中学校では少人数学級が導入されているが、地区内の中学校には個別対応が必要な生徒が多く在籍しており、担任の負担を軽減させるために、各学校には支援員を導入して対応している状況である。
二戸 (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)	5月14日(火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県北部では、県北振興の施策を掲げて地方創生に取り組んでいることから、高校再編については、地域と一体的な町づくりの観点から検討する必要がある。 ・ 2013年から地区内の事業所への就労者が減少している。地域を支える産業が減少している状況を踏まえ、持続可能な社会を構築できる学校教育の環境整備を行うべきである。 ・ 1学級校は、教育の質の保証の観点から手詰まり感がある。中山間地は地域人材が不足しており、県教委には、学校教育に協力できる人材の確保に協力してほしい。(財政的な面については協力していきたい。) ・ 県北・沿岸部の教育の質の保証に向けて、教育予算については充実した配分となるようお願いしたい。 ・ 少人数学級を導入することで教員数が確保できない現状の制度であれば、県費による加配措置をするべきである。 ・ すでに実質的な少人数学級が多い状況にあるが、学級数を維持する観点から、あえて少人数学級の制度を導入するべきである。

地域検討会議（第1回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡① (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	1月7日(月) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校再編においては、高校が地域人材の育成を担っているという視点が重要である。 ・ 県外から生徒を受入れる体制を構築してほしい。 ・ 学級減に伴う加配など、県の支援策があれば地域が納得するのではないかと。 ・ 地域に高校が存在することは町づくりと直結している大事な要素であり、高校の存在は町の存続のキーである。 ・ 県外のみならず、外国からの生徒の受入れの視点も必要である。 ・ 1学級定員40人の基準を見直すべきである。 ・ 現在の再編計画は、様々な意見を集約して策定されたもので評価している。 ・ 紫波総合高校については、総合学科の学習内容を精査し、魅力ある学校づくりを進めていく必要がある。 ・ これから岩手を支える人材として、工業系人材の育成は必要である。
盛岡② (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	1月28日(月) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市部、沿岸部、中山間地それぞれでの高校の役割があり、多様な生徒への対応や地域産業の担い手育成という視点も高校再編においては大切である。 ・ 雫石町は交通の便を考えると都市部に分類されるかもしれないが、町の面積が約609km²と広く、雫石高校が無くなると高校への通学が困難になる地域もある。 ・ 現在のままでは近隣の市町村で生徒の奪い合いになるので、後期計画では県外からの生徒の受入れ制度について強く打ち出し、発展的な再編計画としてほしい。 ・ 県としても各市町村と協力しながら県外生徒の受入れ制度をつくり、地域の高校の存続について考えてほしい。 ・ 併設型の中高一貫教育校である一関第一高校附属中学校へは遠方から入学する生徒もいるため、後期計画では盛岡地域での中高一貫教育校の設置も検討すべきである。 ・ 県内の中学校卒業生数が減っていく中、矢巾町の生徒数は10年後も殆ど変わらない状況が続くため、地元の不來方高校については、存続をお願いしたい。 ・ それぞれの地域には様々な産業があり、企業等での体験学習や地域人材による講話等、地域との交流は学校の魅力づくりにつながると思う。
岩手中部 (花巻市、北上市、 西和賀町)	2月8日(金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期計画の策定に当たっては、進学実績のある高校の盛岡一極集中を見直すことも検討してもよいのではないかと。 ・ 後期計画は地域の学校の役割を重視しつつ、「岩手ならではの」特徴的な計画としてほしい。また、併設型中高一貫教育校の新設についても検討してもよいのではないかと。 ・ 高校は地域の「まちづくり」「ひとづくり」に欠かせない存在である。「高校の魅力づくり」について、市としても積極的に支援していきたいと考えている。 ・ 高校の募集停止・統合は、地域の賑わいを無くしてしまう可能性があり、結果として地域が衰退してしまうということも考えられることから慎重に検討する必要がある。 ・ 地域との連携・協働が進んでいる高校をやむを得ず再編する場合には、地域との連携を継続できる環境づくりについても配慮する必要がある。 ・ 後期計画の策定に当たっては、特別な支援を要する生徒への適切な指導や支援体制の充実の観点も大事にしながら検討する必要がある。 ・ 岩手県は広い県土を有することから、一律の基準によらない柔軟な対応も必要である。 ・ 後期計画においても、「特例校」の制度は堅持していただきたい。また、各地域の地方創生の取組の状況や社会情勢の変化等も踏まえた検討が必要である。 ・ ものづくり企業の進出による人口の社会増等、後期計画の策定に当たっては、このような社会情勢の変化も考慮した上で検討を進める必要があると考えている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
胆 江 (奥州市、金ヶ崎町)	12月25日(火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校であっても地域には学校が必要であるという観点から、学級減はやむを得ないとしても、学校の統合は最低限にとどめ、地域の学校をどのように残していくべきかの視点で高校再編を考えるべきである。 ・ 地域から学校を無くすことは、地域として適切な教育環境をいかに維持するかの課題に大きく影響することである。 ・ 本県は東北を代表するものづくり先進県として職業人の育成に力を入れており、工業系の学校は維持しなければならない。 ・ 本県は広大な面積を有することから、本県独自の考え方による地域別の再編計画が必要である。地域ごとに望ましい学校規模の基準を設けるべきである。 ・ 学力の保証が重要視されていることもあり、さらに取組を推進するのであれば、再編計画において1学級の定員にも目を向けて教育環境の整備を進める必要がある。
両 磐 (一関市、平泉町)	1月18日(金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期計画の具体的な検討を進める過程で、募集定員や設置学科等について、県立高校と私立高校との調整が必要となる場面が出てくる可能性もあると思われる。今後、私立高校の状況も考慮に入れながら後期計画の策定を進めてほしい。 ・ 特別な支援を必要とする生徒数が増加していることから、高校においても、今まで以上に特別な支援を必要とする生徒への対応が必要になる。 ・ 後期計画策定に当たっては、少子化の進行や人口減少の状況、県の産業振興の方向性、産業界の動向・ニーズ及び地域の方々の意見を十分に聞きながら、県全体の状況をしっかりと把握した上で検討を進めてほしいと考えている。また、策定した計画は、確実に実行するという姿勢で臨んでいただきたい。 ・ 後期計画の策定においては、中山間地・沿岸部の1学級校のあり方についての検討及び通学支援策の検討が必要になるのではないか。
気 仙 (大船渡市、陸前高田市、住田町)	2月7日(木) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校教育においては、将来、地域医療を支えるような優秀な人材もしっかり育てていくという視点も必要である。 ・ 少子化が進む中においては、高校の統合等を検討することは、やむを得ないと思われるが、統合により公共交通機関での通学が困難になる場合には、通学支援策を検討することも必要である。 ・ 後期計画の策定に当たっては、これからの岩手を支える人材をどのように育てていくかという視点も必要である。 ・ 沿岸部、中山間地のそれぞれの地域の高校には役割があり、地域の将来を担う人材の育成の視点も高校再編を考える上で重要である。 ・ 専門高校と比べ普通高校は学びの特長を出しにくいように思う。学校ごとに学びに特色を持たせるなど、魅力ある学校づくりに取り組む必要がある。
釜石・遠野 (釜石市、遠野市、大槌町)	12月27日(木) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手大学釜石サテライト内に設置されている三陸水産研究センターや釜石・大槌地域産業育成センターと連携した高校のあり方を模索するべきである。 ・ 地域における高校の必要性や重要性を、十分理解した上で後期計画の策定を進めていただきたい。 ・ 後期計画の策定に当たっては、新たな設置基準による少人数学級の導入等についても検討し、全国的に見ても特徴的な岩手型の再編計画を策定してはいかがかと考える。 ・ 小規模校の中には、今後も存続させる必要のある学校が多くあると考えている。子ども達、それを支える地域の方々を地域との連携による教育の充実の中にどのように位置づけるのかについて考える必要がある。夢のある計画を示していただきたい。 ・ 遠野高校では地域課題の発見、解決に向けた取組を行っており、地域と密着した教育を進めていくことが、これからの中山間地・沿岸部の教育のあり方であると考えている。 ・ 県立高校が市町村と連携を強化し、魅力化を図るということが必要である。 ・ 小規模校においてもコース制を取り入れるなどして、様々な産業に対応する学びの機会を設けることが必要であると考えている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>宮古 (宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村)</p>	<p>1月15日(火) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は生徒確保に向けた自治体間の競争が加速していくと思われる。学校の魅力を高めることで地域外から生徒を集める視点が大切になる。 ・ 宮古管内には、より高いレベルで部活動や勉学に取り組みたいと考え、管外の高校を希望する志の高い生徒もいることから、高校の選択肢を大切にした後期計画が必要である。 ・ 地域の学校を統合せずに残す方策として、都市部の生徒数が多い学校の学級数を減じることも考えられるのではないかとと思われる。 ・ 後期計画の策定に当たっては高校教育と町の教育が力を合わせ、子どもたちの地域産業に対する理解や地元に対する意識・愛着を高めていく仕組みづくりも必要であるという視点で検討をしなければならないと感じている。 ・ 県教委は、各地域の実情に配慮し、10年間の再編計画を策定していると認識している。後期計画の策定に向けた検討に当たっても、地域で学ぶ教育環境をしっかり守るという再編計画の基本的なスタンスを変えない姿勢であることを望む。 ・ 後期計画を策定するに当たり、小規模校については、学級数を維持することで教員数を確保できるよう、30～35人学級を実現させてほしい。 ・ 各市町村においては、人口ビジョンや地域戦略を策定して取り組んでいる。岩手県で生活したいと思われるよう、教育に対する取組が積極的な県であることを打ち出すという視点でも高校再編を進めてほしい。 ・ 宮古地区にとって水産、工業、商業に関する専門学科は必要であり、入学者が定員を下回っても存続させながら、今後の専門教育のあり方について考えてほしい。
<p>久慈 (久慈市、洋野町、 普代村、野田村)</p>	<p>2月4日(月) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒数の減少に伴い学級数を減じていくことについては理解しているところではあるが、これにより配置される教員数も減少することから、今後、生徒の学力をどのように維持させていくのが重要になってくると考えている。 ・ 再編計画においては、望ましい学校規模を原則4～6学級としているが、これだけ人口減が進行している社会情勢の中にあっても小規模校を統合することにより4～6学級を確保する必要があるのか疑問を感じている。 ・ 中山間地では、通学条件等の面で教育を受ける機会の保障が難しいことから、高校再編においては都市部と同様の視点で考えるのではなく、地理的な条件も踏まえた、柔軟な考え方で検討するべきである。 ・ 全国的に人口減少が進行している中、子どもの数のみで学校再編を考えるのではなく、子どもたちにとって今後の学校教育に何が必要であるかという視点で、これまでの考え方に捉われない高校再編を行うべきである。 ・ 生徒にとっては高校の選択肢は多い方がよいので、統合して学校や学科を減らすのではなく、存続させる方向性で検討してほしい。
<p>二戸 (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>12月26日(水) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口が減少する中であって、学校の統合は避けられないと考えているが、「地域の将来を担う人材育成」を進める地域の取組や特殊事情等も考慮した上で進めてほしい。 ・ 二戸地区全体として「普通高校のあり方」及び「専門高校・総合学科高校のあり方」を考えていかなければならない時期に来ているのではないかと。 ・ 学級減や統合等の議論は、時の流れとしてやむを得ない部分もあるが、地域を担う人材の育成等、様々な観点から高校再編の検討を行っていただきたい。 ・ 学校間連携の仕組みを工夫する等の具体的な施策の実施により、小規模校においてもその魅力が損なわれないよう、県の積極的な関与をお願いしたい。 ・ 後期計画の策定の際には、地域の中で小規模校が存続でき、かつ、生徒が満足した高校生活を送れるような環境・条件づくりについても検討を進めていただきたい。 ・ 子どもたちの進路目標の多様化も踏まえ、二戸地区としてどのような教育体系(学校・学科の配置)が必要なのか、改めて検討する必要がある。 ・ 地元自治体や企業が学校の魅力づくり等を支援する取組が進んでいることから、再編計画を早急に出すのではなく、取組の成果を見守ることも選択肢のひとつではないかと。

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第2回）岩手中部ブロック 会議録

【岩手中部ブロック：花巻市、北上市、西和賀町】

- 日 時：令和元年5月20日（月）15時00分～17時00分
- 場 所：花巻市交流会館 1階 交流スペース
- 出席者
 - ① 会議構成員
 - 花巻市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）
 - 北上市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）
 - 西和賀町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）
 - ② 事務局（県教育委員会）
 - 中部教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）
 - 県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）
- 傍聴者：一般8人、報道2人
- 会議の概要
 - ◆ 議題及び報告事項
 - 1 平成31年度の入試状況について
 - 【県教委】
 - ・ 資料 No. 1-1 「平成31年度の入試状況について」、資料 No. 1-2 「平成31年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等一覧表（全日制）」に基づき説明。
 - 2 第1回地域検討会議における主な意見等
 - 【県教委】
 - ・ 資料 No. 2 「第1回地域検討会議における主な意見等」に基づき説明。
 - 【高橋 西和賀町産業関係者代表】
 - ・ 県外生徒の受入れについて、現在の検討状況を教えてもらいたい。
 - 【県教委】
 - ・ 県外生徒の受入れについては、有識者による「県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議」を立ち上げ、平成29年度、平成30年度の2年間に渡って検討し、昨年8月に提言をいただいた。県外生徒の受入れについては、県内生徒の学びが確保されること等の一定条件を満たすものについて認めても良いのではないかとの御意見をいただいている。現在、提言を十分に尊重する方向で検討を進めている。
 - 【佐藤 花巻市教育委員会教育長】
 - ・ 資料 No. 1-2 及び参考資料 No. 1 の平成31年度入試の状況を見ると、岩手中部ブロックは他のブロックと比べて欠員が少ない状況にある。花巻市内の高校の入試倍率について言うと、花北青雲高校ビジネス情報科が1.25倍、花巻南高校普通科人文・理数学系が1.23倍の高倍率となっている。また、大迫高校は1学級校の統合検討要件の20人を大幅に上回る34人の入学者となっている。

- ・ これから、令和2年度（2020年度）の学級編制について、花北青雲高校と平成31年度に学級減が延期された花巻南高校の学級減が検討されることとなるが、県央部の産業振興の状況、産業人材の育成及び地方創生の観点からも、この2校について学級減を延期するべきと考える。
- ・ 今年度、一関第一高校附属中学校が開校11年目を迎えるが、進路実績等において十分な成果を上げているものと考えている。新たな中高一貫教育校の設置について検討しても良いのではないか。

【県教委】

- ・ 令和2年度（2020年度）の学級編制については、原則として再編計画に基づいて実施することとしているが、ブロック内の中学校卒業予定者数や各校の定員充足状況、地域の取り組み状況等も見ながら検討することとしている。
- ・ 岩手中部ブロックは、他のブロックと比べて欠員が少ない状況にあるものの、全県を見ると、中学校卒業生数の減少により、多くの高校で欠員が生じている状況にあることから、全県の状況等も見ながら検討する必要があると考えている。

【上田 花巻市長】

- ・ 参考資料 No. 1-2を見ると、花巻南高校は定員200人に対して総受検者数が240人で合格者が201人となっており、花北青雲高校は定員160人に対して総受検者数が187人で合格者が167人となっている。昨年度に比べ、両校共に総受検者数が増加し定員を満たしている状況にある。このような高校の定員を減らすべきではない。
- ・ 花巻市内の中学校卒業生のうち、約100人が盛岡地区の高校へ進学している。盛岡地区の高校への進学者が多いことは、地域の高校に入学する生徒を確保する観点において、好ましい状況ではない。
- ・ 学級編制を検討する際には、定員を満たしている花巻市内の高校の定員を減らすのではなく、盛岡地区の定員を減らすべきである。

3 後期計画策定に向けた意見交換

<意見交換テーマ>

- (1) 小規模校のあり方について
- (2) 少人数学級について

(1) 小規模校のあり方についての御意見

【県教委】

- ・ まず、小規模校のあり方について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料 No. 3「新たな県立高等学校再編計画の概要」、資料 No. 4「小規模校のあり方について」に基づき説明。

【及川 北上市副市長】

- ・ 資料 No. 4の「教育課程における科目の開設状況」の中で、例として示されている2学級校

においては、同じく例として示されている6学級校で開設されている、地理B、日本史B及び理科の一部で開設できない科目があるという説明だったが、なぜ、2学級校で開設できない科目があるのか理由を伺いたい。

【県教委】

- ・ 小規模校においては、規模の大きな学校と比べ、配置される教員数が少ないことから、特に、地理歴史や理科の科目等で専門の教員の配置が限られてしまうことによるものである。

【及川 北上市副市長】

- ・ 教員配置の基準は、国で定めているものなのか、県で定めているものなのか伺いたい。

【県教委】

- ・ 国で定めているものであり、高校標準法がその根拠となっている。

【上田 花巻市長】

- ・ 資料 No. 4 の中の、福島県、広島県、高知県においては、地元からの入学者の割合が高いこと、地域が学校を応援する態勢を取ること及び不登校経験者や特別な支援を必要とする生徒など、多様な生徒に柔軟に対応することを1学級校の存続の基準としているが、これらは、本県の小規模校の存続を考える上において、重要な視点と考える。
- ・ 小規模校である大迫高校の入学者数は、平成29年度は22人、平成30年度は25人、平成31年度は34人（うち県外から1人）となっており、近年入学者が増えている状況にある。地元の方々の協力を得ながら神楽の活動を積極的に行っていることや、花巻市が援助しながらオーストリアベルンドルフへ生徒を派遣していること等、特色ある学校づくりに取り組んでいる成果が入学者の増加につながっているものと考えている。
- ・ 小規模校には、多様な生徒に対し、柔軟に対応できる等の良さがあると考えており、小規模校の存在意義を認めていく必要がある。
- ・ 教育環境を整えることは、教育を考える上で重要な視点であるが、財源の問題も伴う。ただし、新たな校舎の建設や施設設備の充実等が伴わなければ、小規模校を存続させても、それほど大きな財政負担にはつながらないものと思われる。子どもたちのことを考えた上で、小規模校の存続について考えてもらいたい。

【細井 西和賀町長】

- ・ 地域にとって必要な学校を考える場合、地域と一体となって活動していることが重要な視点と考える。
- ・ 西和賀町と西和賀高校が一体となって取り組んでいる例を紹介したい。昨年度から西和賀高校では、地方創生を目指す探究学習として「いのち輝く百年創造塾」を始めており、その学習の成果として、高校生が主体となって考えた地方創生に向けた施策を町三役、町議会議員、町の幹部職員の前で発表してもらい意見交換を行った。町の課題について、高校生との率直な意見交換は前例のない画期的な取組であったと評価している。
- ・ また、高校生が地産地消のメニューを考案し、そのメニューを生かした弁当を商工会婦人部が作り、町の大きなイベントの一つである「雪あかり」で販売し、各方面から好評をいただき、イベントの盛り上げに一役買ってもらった。
- ・ これらの活動は、地域を学習フィールドとしながら、地域の課題を発見し、解決する能力や

地域の幅広い年齢層の方々との交流を通してコミュニケーション能力を培い、発表等を通してプレゼンテーション能力を育む教育活動であり、社会に羽ばたく前段階にある高校生にとって真の社会性や協調性を育むものとする。

- ・ 地域社会との交流によって学ぶことは重要であると考えており、地域貢献に取り組む高校こそが、地域にとって必要な学校と考える。
- ・ 教育の質の維持や教育活動の充実を図るには、教員数の確保が大きく関わってくるものと思われる。各校に配置される教員数は、学校の規模によって定められるとのことであるが、過疎地域の多い本県において、地方創生を担い、地方創生に向けて取り組んでいる学校を「地方創生指定校」（仮称）として教員を加配する等の措置が必要と考える。
- ・ 小規模校の部活動において、団体競技を複数設置することは難しい状況にあることから、地域の特性を生かした部活動に特化し、強化を図るという考え方も必要と思われる。

【高橋 西和賀町産業関係者代表】

- ・ 西和賀高校の生徒が、町の施策に対する提言を行ったこと等の取組の紹介があったが、今後は、昨年度より一歩踏み込んで、高校生が実際に町のそれぞれの現場に入り、農業関係者や商工業の関係者等との率直な意見交換を行いながら、地域課題解決に向けて取り組んでほしい。
- ・ 5月17日に政府の教育再生実行会議が普通科の改革に対する提言をまとめたとの報道があった。高校全体の約7割を占める普通科のあり方について、今までの画一的な教育ではなく、学習の方向性に応じてタイプ分けし、各校がどのタイプかを選ぶ仕組みを導入すべきだとして、具体的に4つのタイプが掲げられており、その中の1つに「地域課題の解決を通じた実践的な学習を重視する学習内容」が示されていた。西和賀高校の取組は、まさに「地域課題の解決を通じた実践的な学習を重視する学習内容」にあたるものと思われ、これは小規模校だからこそ可能なものと考えられる。国が進めようとしている教育を実践している小規模校は残すべきである。
- ・ 小規模校存続に当たっては、教員の加配について考えてもらいたい。
- ・ 高校再編を県全体で考えた場合には、盛岡一極集中を是正する必要がある。

【刈田 脩佐々木電気店】

- ・ 小規模校の存続を考える場合においては、地域を担う人材の育成の視点が必要と考えている。この点において、西和賀高校は地域を担う人材の育成を担っている学校といえる。
- ・ 地域と高校が密着している例を紹介したい。西和賀町には、独居老人世帯、高齢者世帯、障がい者世帯等の除雪必要世帯が98世帯あるが、その世帯に対し、25班からなる「スノーバスターズ」を組織し、除雪作業等を行っており、西和賀高校は、25班のうちの1班として活動し、除雪作業を通して、高齢者等、地域の方々との交流を図っている。高校生が地域の課題に直接触れることによって地域のことを真剣に考える機会ともなっている。
- ・ 西和賀高校は、規模は小さいが、様々な活動に取り組み、成果をあげていることを御理解いただきたい。

【藤原 花巻市PTA連合会副会長】

- ・ 小規模校は、地域との関りを持ちやすいという利点がある。小規模校は生徒一人ひとりに対するきめ細かな指導がしやすい環境にあり、この点が最大のメリットであるとする。

【及川 北上市副市長】

- ・ 北上市には、1 学年 3 学級以下の小規模校はないが、北上市内から進学している生徒がいる西和賀高校と西和賀町の取組に注目している。
- ・ 今後のまちを維持・発展させるためには、将来を担う人材の育成が重要である。将来を担う人材の育成の観点からも高校のあり方を考えるべきである。

【畠山 和賀地区校長会副会長】

- ・ 西和賀高校は、生徒に対するきめ細かな指導をしている学校であり、特別な支援を必要とする生徒への指導、西和賀町からの通学支援や生徒の海外派遣への援助等、様々な要素から中学生にとって入学したい魅力ある学校となっているように思う。
- ・ 地域にとって必要な学校とは、生徒が入学したいという思いを持つような魅力的な学校と考える。

【佐藤 花巻市教育委員会教育長】

- ・ 小規模校は、様々な取組を行っており、学校の魅力づくりに向けて努力している。そのような取組は一般には理解されにくいいため、取組の内容等を広く紹介し、小規模校の現状を理解してもらう必要があると考える。
- ・ 県外生徒の受入れについて、特色ある教育課程や魅力ある学校づくりに積極的に取り組んでいる学校で、生徒の受け入れ態勢が整ったところから積極的に行うべきである。
- ・ 小規模校においては、遠隔教育等を行いながら学力向上に取り組むことも必要であるが、何より教員数の確保が重要と考える。また、地域連携に積極的に取り組む教員については、一定期間人事異動の対象から外し、同一校で長期間活躍できる仕組みを作ることも必要と考える。

【上田 花巻市長】

- ・ 地域にとって必要な学校は統合等をせず、存続させるということを前提とした上で、学校の魅力化を考える必要がある。また、小規模校も存続させることを前提とした上で、学校の魅力化に向け、学校と共に自治体や地域が協力する必要がある。
- ・ 県としても学校の魅力化に向けた方策を検討するべきである。

【佐藤 花巻商工会議所副会頭】

- ・ 後期計画の策定においては、「教育の機会の保障」と「教育の質の保証」という観点は重要であることを改めて感じているところである。特に、地理的条件により通学が困難な生徒に配慮してもらいたい。
- ・ 小規模校においては、地域社会との連携による学校の魅力づくりが求められているものと考えられる。伝統芸能の担い手育成に向けた活動、地域性を生かした部活動及び生徒の海外派遣等も学校の魅力化につながるものと考えられる。

【佐藤 西和賀町教育委員会教育長】

- ・ 西和賀高校は、近隣に他の高校がなく他地域への通学が極端に困難であることから、特例校として認められている。
- ・ 西和賀高校へ通学する場合、北上市内の生徒は、主に J R 北上線を利用し、沢内地区からの生徒は主にバスを利用している。仮に、地域に高校が無くなると、鉄道やバス等の公共交通機関の利用者が減ることにつながり、維持できない事態も考えられる。

- ・ 地域に高校が無くなり、通学時間が極端に長くなることは、教育の機会の保障の観点から避けなければならないし、地域の事情も考慮する必要がある。
- ・ 西和賀高校は「学校を核とした地域づくり」「地域とともにある学校づくり」を進めている。今年度から2年間、県教委の指定を受けコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入に向けた研究を行っている。県教委の指定を受けたことは、学校と地域との連携した取組が評価されたものと考えており、導入の仕方、学校と地域の連携のあり方等、西和賀高校と地域の取組の例が、全県に波及していく形になれば良いと考えている。

(2) 少人数学級についての御意見

【県教委】

- ・ 次に、少人数学級について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料 No. 5 「少人数学級について」に基づき説明。

【上田 花巻市長】

- ・ 同じ生徒数で、1学級の定員を35人等とする少人数学級を導入した場合、学級数は増えても、配置される教員数は、定員40人の場合と変わらないと理解して良いか伺いたい。

【県教委】

- ・ その理解でよい。280人の生徒がいる場合、現行の制度では定員40人の7学級となるが、仮に定員を35人とした場合は8学級となり、1学級増えることとなる。しかし、現在の高校標準法においては1学級の定員を40人としていることから、教員数の配置は7学級分となるため、学級数が増えても配置される教員数は変わらない。

【佐藤 北上工業クラブ顧問】

- ・ 定員割れの状況が続いているのにもかかわらず定員を変えないことについて、国から何らかの指導が入らないものなのか伺いたい。

【県教委】

- ・ 現段階では、国からの指導等はない。ただし、将来的には不透明である。

【佐藤 北上工業クラブ顧問】

- ・ 少人数学級の導入について、県の考えを伺いたい。

【県教委】

- ・ 現行の高校標準法の基で、県全体で少人数学級を導入した場合には、教員数のみが減ることとなるため、現段階での少人数学級の導入は難しいと考えている。

【及川 北上市副市長】

- ・ 資料11頁に「少人数学級の安定的な実施を図るためには、国における教職員定数の見直し及びこれに伴う財政措置が不可欠であり、県としては、これまでも制度改善の要望を行っている。

ます。」とある。県としては少人数学級を導入したいと考えているものの、財政措置がないことから導入できないと考えているのか伺いたい。

【県教委】

- ・ 少人数教育は現在も行われており、少人数教育の一つとして少人数学級があるものと捉えている。少人数学級の導入については、今後検討する必要がある可能性もある。現在、国に対しての要望は、教員をより多く配置し、教育の充実を図るという観点からのものである。

【佐藤 花巻市教育委員会教育長】

- ・ 参考資料 No. 3を見ると、第1回地域検討会議の各ブロックにおいて、少人数学級が話題となっていたようである。少人数学級の導入を求める理由としては、小中学校で35人学級が導入され効果があり、その連続性を願う部分と、きめ細かな指導に対する期待が背景にあると思われる。
- ・ 少人数学級の導入を求める意見を持つ人の中で、教員数が減ったとしても少人数学級を導入してほしいと考えている人はいないものと思われる。現在、小規模校においては、実質、少人数学級の状況にあることが示されているが、現行の制度の中で、教育の充実のために何ができるのか、工夫できることはないのか等を考える必要がある。県として支援できることについても考えてもらいたい。

【細井 西和賀町長】

- ・ 少人数学級を導入し、少人数教育を充実させるべきと考えるが、少人数学級の導入によって教員数が減ることがあってはならない。高校標準法が実態に合わないのであれば、国に対する教員定数の改善の要望を強めてもらいたいし、県としても実態に即した教員配置に努めてもらいたい。
- ・ 西和賀高校は1学級校であるが、学年を各20人の2クラスに分け、それぞれのクラスに学級担任を配置することで、きめ細かな指導を行っている。また、英語、数学においては習熟度別授業を行っており、クラスを3つに分け、限られた教員数の中で少人数教育を行っている。県全体として、実情に応じた良い教育を実践するため、教員の配置等について配慮してもらいたい。

【平野 北上市教育委員会教育長】

- ・ 今回の会議のテーマとして少人数学級を取り上げた理由について伺いたい。

【県教委】

- ・ 県として少人数学級の導入の方向性を示すためではなく、第1回の地域検討会議において、少人数学級導入に対する多くの御意見をいただいたことからテーマとして設定した。また、少人数学級について理解していただくため、資料を作成し説明したところである。
- ・ 小中学校の教員配置は義務標準法で定められており、児童・生徒数が基本となっている。一方で、高校の教員配置は高校標準法で定められており、学級数が基本となっている点において大きな違いがあることを御理解いただきたい。
- ・ 県としては、国に対し教員定数の改善の要望はしているものの、現行の制度のままの少人数学級の導入については、今のところ考えていない。

【上田 花巻市長】

- ・ 県内の小規模校の1学級あたりの在籍生徒数は25.1人であり、実質的に少人数教育が行われている状況にあるとの説明であったが、現行の制度の中で、35人等の少人数学級を導入することで教員数が減るのであれば、40人学級を維持すべきである。
- ・ 小規模校の教育の充実のために、県単位での加配について考える必要がある。

【高橋 西和賀町産業関係者代表】

- ・ 資料5頁で、極端に生徒が減少した場合の統合の基準として、「入学者が2年連続で20人以下となった場合には原則として、翌年度から募集停止とする」と示されているが、仮に35人学級を導入した場合、この基準を見直す考えがあるのか伺いたい。

【県教委】

- ・ 1学級校の統合に関する基準は、全体計画である「新たな県立高等学校再編計画」に示されている内容であり、現時点で変更することは考えていない。

【平野 北上市教育委員会教育長】

- ・ かつて、公立高校と私立高校の入学者の比率は安定したが、近年、この比率が年度によって変化し、バランスが崩れているように思われる。県教委と私立高校との間で定員数等について調整しているのか伺いたい。

【県教委】

- ・ 私立高校は、学校法人の建学の精神や教育理念に基づき運営され、特色ある教育活動が展開されており、それぞれの高校が独自に定員を定めている。年に2回県教委と私学協会の代表との間で公私立高等学校連絡会議を開催し、再編計画の進捗状況や翌年度の学級編制の考え方を伝えながら意見交換を行っている。

4 その他

【及川 北上市副市長】

- ・ 平成31年度入試の状況を見ると、北上市内の中学校卒業者のうち、北上市以外の高校への進学者の割合が約4割となっており、市としては、地元への進学率を上げる必要があると考えている。今後、北上市内の県立高校の学校長との意見交換の機会を持ちたいと考えており、地元の高校の魅力化に向け、市としても協力していきたいと考えている。

【県教委】

- ・ 再編計画については、平成27年度に改訂した「今後の高等学校教育の基本的方向」により方向性を示した上で、平成28年3月に10年間の具体的な計画について策定したものである。
- ・ 今後の高校教育のあり方については、教育の質の保証と教育の機会の保障のどちらか一方のみではなく、両立させることを考えていかなければならないことから、地域検討会議を開催して地域の皆様の意見をいただいているところである。
- ・ 地域の実態を踏まえた意見等については、今後の後期計画の策定に生かしていきたいと考えている。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第2回)【岩手中部ブロック】

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	花巻市	上田 東一	花巻市長	
2		佐藤 良介	花巻商工会議所 副会頭	
3		藤原 耕一	花巻市PTA連合会 副会長	
4		佐藤 勝	花巻市教育委員会 教育長	
5	北上市	及川 義明	北上市 副市長	
6		佐藤 秀之	北上工業クラブ 顧問	代理
7		今野 好孝	北上商工会議所 専務理事	
8		平野 憲	北上市教育委員会 教育長	
9	西和賀町	細井 洋行	西和賀町長	
10		刈田 敏	南佐々木電気店	
11		高橋 宏	西和賀町産業関係者代表(農業)	
12		佐藤 敦士	西和賀町教育委員会 教育長	
13	地区中学校校代表	吉田 靖雅	花巻市校長会 副会長(花巻市立花巻北中学校長)	
14		畠山 敏	和賀地区校長会 副会長(北上市立和賀東中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
15	県議会議員	佐々木 順一	岩手県議会議員	
16		高橋 元	岩手県議会議員	
17		名須川 晋	岩手県議会議員	
18		佐藤 ケイ子	岩手県議会議員	
19		高橋 孝真	岩手県議会議員	
20		川村 伸浩	岩手県議会議員	
21	県立高等学校	菅野 慎一	花巻北高等学校長	
22		菅原 一成	花巻南高等学校長	
23		佐々木 勝也	花巻農業高等学校 副校長	
24		小山 秀司	花北青雲高等学校 副校長	
25		小船 光浩	大迫高等学校長	
26		泉 悟	黒沢尻北高等学校長	
27		坂本 美知治	北上翔南高等学校長	
28		佐々木 直美	黒沢尻工業高等学校 副校長	
29		鈴木 尚	西和賀高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
30	県教育委員会事務局等	中屋 豊	中部教育事務所長	
31		平賀 英和	中部教育事務所 主任指導主事	
32		梅津 久仁宏	教育次長	
33		木村 克則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
34		軍司 悟	学校調整課首席指導主事兼産業・復興教育課長	
35		藤澤 良志	学校調整課特命参事兼高校改革課長	
36		谷地 信治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
37		市丸 成彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
38		小野寺 一浩	学校調整課高校改革担当指導主事	
39		女鹿 光介	学校調整課高校改革担当主査	